

H24地域協働研究（地域提案型・後期）

RD-04 岩手県の「森林公園」の管理に関する研究－絶滅危惧植物の公開と保全について－

課題提案者：KOIWA（岩手県滝沢森林公園 指定管理者）、研究代表者：総合政策学部 教授 平塚明
研究メンバー：斉藤友彦（KOIWA）、鈴木まほろ（岩手県立博物館）、兼子伸吾（福島大学）

<要 旨>

岩手県の森林公園には希少な野生植物が数多く生育している。しかし、公園は県民のための「公開」性と希少生物の「保全」とのジレンマを常に抱えている。ハード（保護柵、制札板）、ソフト（管理者の巡視）両面の対策があるが、決定的なものはない。そのため、希少種の存在自体を伏せている公園もあった。管理者は巡視などに市民の、具体的保全策に研究者たちの協力を必要としている。

1 研究の概要（背景・目的等）

県の森林公園に生育する希少野生植物は、公園利用者のアメニティや自然愛護意識の高揚に寄与する。しかし、公園は、県民に広く開放した施設として出入りは自由であり、「公開」性と希少植物の「保全」とのジレンマという問題を常に抱えている。森林リクリエーション空間における希少野生植物の保全に関して、実務的な情報は少ない。本調査では岩手県内16カ所にある森林公園の管理において、絶滅危惧植物の「公開」と「保全」の両立という課題の解決策について検討する。

2 研究の内容（方法・経過等）

岩手県内の地方自治体により設置され、名称に「森林公園」を含む公園、あるいは設置目的や特性が森林を活用したレクリエーション空間である公園を対象として、16公園を抽出した。アンケートにより、園内に存在する絶滅危惧植物の分布と絶滅への脅威、管理・公開・保全状況について調査した。必要に応じ、管理日誌の類も閲覧した。所管（岩手県農林水産部森林保全課など）からの情報取得、ヒアリングもおこなった。

3 これまで得られた研究の成果

16公園中9公園から回答を得た。1公園あたり5種～20種の希少野生植物が生育していた。個体数は1種につき数個体～1,000個体、個体群の面積は100㎡～1,000㎡であった。

保全対象は、希少種に限らず園内のすべての植物とする例と、限られた種を選定する例とがあった。後者としては「岩手県レッドリストにおけるBランク以上の種」、「花などが目立ち園芸的観賞価値があり盗掘が懸念される種」、「近隣にはなく公園を特徴づけている種」が挙げられた。管理者が公園の特性に適すると考える独自の目安を設けていた。

実際の保全は、保護柵の設置、管理人による巡視、作業時の観察により行われていた。採取禁止については、制札板を設け、散策路案内図に明記する例もあった。草刈りや支障木の処理については、「希少植物に目印をつける」、「開花・結実時には避ける」など、作業員との情報共有がなされていた。公園管理について、協力団体、自然保護管理員、監視ボランティア、調査研究機関による調査との間

に明確な協力関係が築かれている例があった。また、公園利用者（市民）による情報提供など、任意の関係もあった。

希少野生植物にとって最大の脅威は盗掘であった。明確な盗掘行為が5公園で見られた。最も効果的な抑止力は巡視であった。管理者が現場で遭遇して嚴重注意を与えている。この巡視についても協力者（市民）の力は大きかった。また、種子散布動物の研究のために設置した無人カメラが結果的に盗掘監視に役立つ例もあった。

一方、希少種や生育地の特性について市民への積極的な情報提供は行われていなかった。これは盗掘の危険が第一の理由である。生育地の踏みつけ対策としては、草刈りの強弱により利用者の歩行範囲を誘導する例があった。また、5公園でニホンジカによる食害の脅威が懸念されていた。過去に植物についての学術調査が行われた公園は四つあった。しかし、時間が経過しているため最新の調査が望まれている。

4 今後の具体的な展開

公開と保全の両立は、公園だけの力では難しいことがわかった。保全にかかわる構成メンバーと、その相互関係について、図1に示した。盗掘防止は管理者の巡視だけでは足りない。公園を利用する市民の協力が必要である。近年、市民協働の動きが活発化し、地域に密着した公共施設へのアドプト制度の導入がみられる。本県でも、公園管理運営への導入をさらに検討すべきだろう。熱心な利用者をパークボランティアとして採用するには、公園管理者からの支援も重要である。また、公園管理者が保全対象を選定し、的確な保全策を講ずるには研究者の知見が必要との指摘もあった。

管理と保全についての公園同士のコミュニケーションも十分ではないことがわかった。今回の調査をきっかけに、これらの情報交換や交流が端緒につながると言える。今後は、公園自身を自生地として永続的に維持するとともに、近隣で開発がある場合は希少種の避難場所、受け入れ空間として利用する方向も考えられる。

5 その他（参考文献・謝辞等）

アンケート調査についてご協力いただいた各公園の管理者の方々に厚く御礼申し上げます。

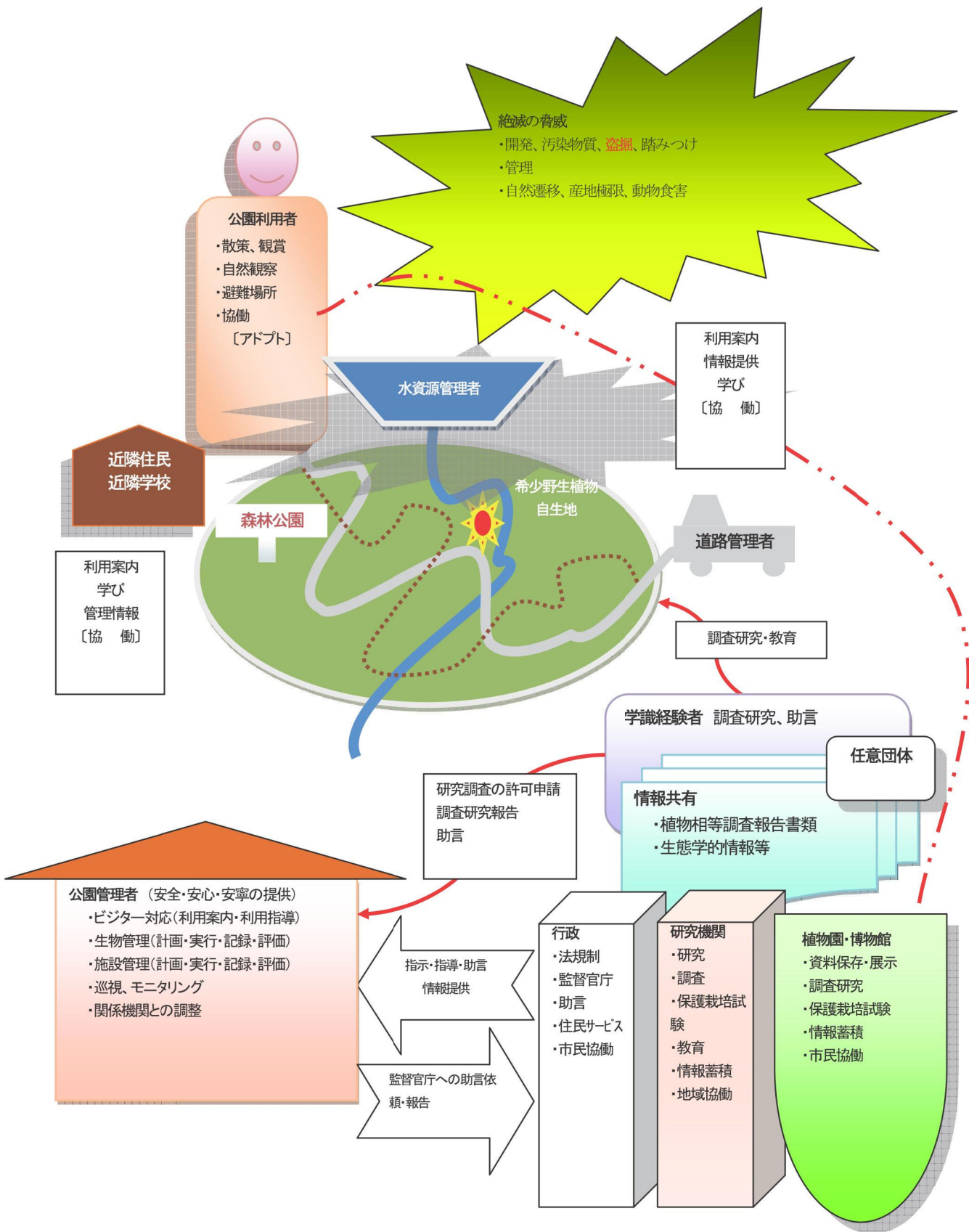


図1 希少野生植物の保全に関する関係図